

# もっと知りたい ふるさと

新名所

## ⑨ 千曲高原の ホタルの里

八幡の大池を中心にした千曲高原の更級川源流近くで、平成十八

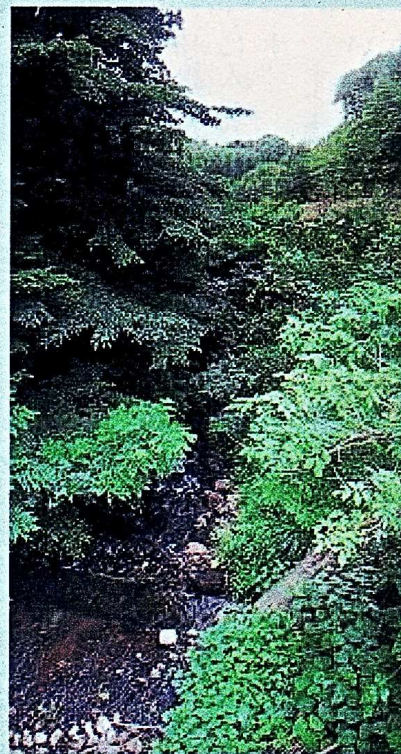
年六月二十七日に三〇〇匹ものゲンジボタルが飛び交い人々を驚かせたことがあります。そこから「千曲高原のホタルの里」と呼ばれるようになったのです。

左図のように更級川の源流地である大池下池の周囲は平成七、八年頃に千曲高原の保養地として整備が行われました。ホタルの里はそのやすらぎ広場の一面にあつて

更級渓谷に沿った遊歩道の周辺です。

六月中旬から七月初旬の夕暮れに訪れた人には駐車と同時にホタルが遊歩道へと案内してくれます。ホタルの光に誘われ坂道を一五〇

ほど歩くと「ほたる橋」に辿りつきます。そこでは田園のホタル風景とは違い深山の野趣あふれるホタルが飛翔を披露してくれます。眼下十数段下を流れる溪流の音がするあたりから、見上げれば左



更級川渓谷

岸に二十数段もある杉木立の梢近くまでもホタルが舞い上がり、橋

上の目線より下は広葉樹の葉や草が生い茂り、葉擦れの音がかすかに感じられるといった立体的・音楽的な舞台背景でのホタルの乱舞には魅了されます。そして人工の光源が一切入らない自然の夕暮れ時にはホタルの優美な光芒は際立つて映えます。

更に、ホタルが地上に現れ、空に舞い上がる直前に出会った人は幸運です。岸辺の木の葉や草の上に止まり、空に旅立ちの準備をしているホタルは、いっせいに四秒間隔で同時明滅を繰り返し、谷川のたたずまいを鮮やかに浮かび上がらせては消え、又映しだします。かすかな風のそよぎを感じたとき、心安らぐ幸せを味わえるのです。

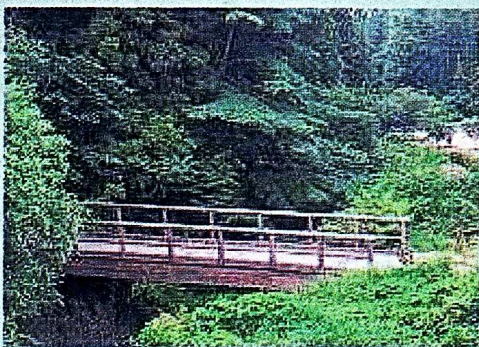
このホタルの里は素晴らしいのですが毎年ホタルの大発生はない

のです。原因はエサが不足しているからです。

昨年「ホタル・黒メダカ振興会」が八幡地区に発足し、三年前の大発生の再現を目指して里の整備にあたっていきます。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

ホタル・黒メダカ振興会顧問

青木 亨



ほたる橋